

1965、県勢ビッグテン

- 1 東北本線(仙台―盛岡間)複線電化工事完成し、三陸縦貫鉄道起工され、国道四五号線改修工事すすみ、日本一高い「槇木沢橋」完成す。
- 2 東北縦貫自動車道建設基本計画(東京―盛岡間)きまる。
- 3 岩手山麓国民休暇村開設・「夏油温泉」国民保養温泉地に指定、盛岡グランドホテル・平泉休憩舎「関山亭」落成す。
- 4 県営運動公園に陸上競技場完成し、岩手国体誘致体制すすむ。
- 5 県民あげて異常気象防災対策に努め、史上最大の米収を確保す。
- 6 岩手県物産観光サーブिस・ステーション大阪に新設され、東南アジア諸国の現地調査するなど、県産品市場開拓を期す。
- 7 県立精薄施設「松風園」開設され、「緑生園」着工さる。
- 8 国営須川山麓・駒ヶ岳山麓、県営第二松川開拓パイロット事業およびスーパー林道「奥岩泉線」など、大規模農林業基盤事業推進さる。
- 9 知事・議長のあっせんにより、教育正常化すすむ。岩手県庁・岩手県議会議事堂、新築落成す。
- 10

戦後二〇年目にあたる一九六五年は県勢の飛躍の年でもありました。

さきに策定された県総合開発計画に基く八大方針によって各種の施策が着実に実施されました。

本年度の当初予算も昨年度よりも五八億二千四〇万六千円多い三八八億一千七万三千円という、東北六県でも福島につぐ大規模な予算となりました。

これをもとにして県政の重要施策がすすめられ、「住民に直結した県政」が順調に実を結んだ年となりました。

まず交通事情の整備改善では、東北本線の複線電化の完成や三陸縦貫鉄道の起工があげられ、また仙台と八戸を結ぶ国道四五号線の改修工事がすすみ、さらに東北縦貫自動車道の建設計画がきまるなど、画期的な改善がなされたといえましよう。

また農林業関係では、異常気象を克服して史上最大の米収をあげ、さらに前進するための国営・県営の大規模農林業基盤事業が実施されました。

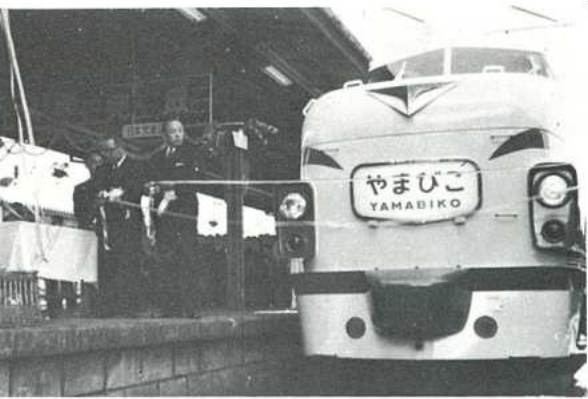
そのほか岩手山麓国民休暇村など健全な観光地や観光施設が整備され、あるいは国体施設の整備、精薄者対策の推進など、多くの施設が完成しました。

さらに、ことは県産品市場開拓が積極的に取上げられ、知事を先頭に東南アジア市場調査が行なわれ、また県産品の関西進出も画されました。

なお、教育の正常化がなされたのもことしの明るいニュースでした。

このほか県庁舎落成など、各般にわたって力強い歩みがみられ、本県勢の発展する姿がみうけられた年でした。

1 東北本線(仙台―盛岡間) 複線電化工事完成し、三陸縦貫鉄道起工され、国道四五号線改修工事ですみ、日本一高い「横木沢橋」完成す。



電車特急「やまびこ号」始発式。

■東北本線(仙台―盛岡間) 一八三・六キロの複線電化工事は、昭和三十六年一〇月着工以来三年一〇カ月ぶりに完成、本年一〇月一日開通しました。この工事の完成に伴って、東北本線に初めて特急電車が走るようになりました。

これによって上野―盛岡間は七時間一〇分で結ばれ、いままでもりも四〇分ほど短縮、輸送力の拡充強化ははかられ、産業・経済発展の新しい基盤がつくられました。■国鉄三陸縦貫鉄道は大正一一年制定された鉄道敷設法の予定鉄道路線となつてから四一年間、いよいよ鉄道公団の手で起工されることになりました。

来春早々起工されることになった久慈線と盛線の総工費はおよそ一九八億円で、こんど起工されるのは久慈―普代間二六キロ一億五千万円、盛―綾里間一〇キロ一億円で、この鉄道の開通も数年後に期待されることになりました。■青森と宮城県を結ぶ国道四五号線は、三陸沿岸唯一の国道として改修工事(本年度約九億四千万)がすすめられており、去る八月三十一日には普代―田野畑両村を結ぶ「横木沢橋」が二億三〇〇万円で完工しました。この橋は高さ一〇四mで、日本一高い橋で、この完成によって田野畑―宮古間が九〇分で結ばれることになりました。

2 東北縦貫自動車道建設基本計画(東京―盛岡間) きまる。



東北縦貫自動車道の計画。

■東北縦貫自動車道建設基本計画は、一〇月一八日の国土開発縦貫自動車道建設審議会で、中央、北陸、中国、九州の四縦貫自動車道とともに承認されました。東北縦貫自動車道の建設区間は東京(岩槻)―盛岡間四八〇キロ、

十和田―青森間八五キロ、あわせて五六五キロとなっています。建設省では基本計画に沿って整備計画をつくり、おそくとも明年三月までに日本道路公団に施行命令を出す方針です。いづれ、この自動車道の建設はこんご一〇カ年で完成する予定で三九年度からスタートした現行の道路五カ年計画と次期五カ年計画(四四―四八年度)を含めて、およそ一兆三千億円投入されることとなります。

また、東北縦貫自動車道の建設基本計画の区間は、五つの縦貫道の総延長二千三三〇キロの六六%にあたり、標準車線数は四車線で平均スピード一〇〇キロで走る高速道路になります。設計速度では平たん部が毎時一二〇キロ、丘陵部一〇〇キロ、山岳地八〇キロで、本県内に考えられるインターチェンジは一関市、水沢市、北上市、花巻市、盛岡市となっています。このように地方拠点都市を結ぶ高速道路は本格的な建設段階に入ったのです。

3 岩手山麓国民休暇村開設、「夏油温泉」国民保養温泉地に指定、盛岡グランドホテル・平泉休憩舎「関山亭」落成す。



「奥の岳湯」といわれた夏油温泉。

■岩手山麓国民休暇村は八幡平国立公園地域のうちの網張地区に総工費五億円で、昭和三九年九月に着工されてから、本年八月七日に開村されたものです。ここには建設費四千三〇〇万円が完成した、国民宿舎「網張荘」

もあり、キャンプ場やスキー場など、岩手山や裏岩手連峰の登山基地としても最適で、盛岡市からバスで一時間の距離にあります。

■夏油温泉は和賀郡和賀町の夏油川沿いにあり、いまからおよそ八〇〇年前の嘉祥年間に発見された温泉で、「奥の岳湯」として全国に知られている名湯です。

この温泉が本年六月に厚生省の現地調査を得て、国民保養温泉審議会で正式に「国民保養温泉」に指定され、これから三カ年計画でバス道路や上水道施設、レストハウス、キャンプ場などを建設してゆきます。

■盛岡グランドホテルは総工費四億五千万円で盛岡市愛宕下一番の一〇に建設され、一二月一七日に落成、一九日から開業します。

このホテルは愛宕山の中腹に建てられ、鉄骨鉄筋コンクリート造り地下二階地上三階建てで、客室は五〇室です。

■平泉休憩舎「関山亭」は総工費二千六〇〇万円が建設され、本年一月二日から開業しました。

4 県営運動公園に陸上競技場完成し、岩手国体誘致体制すすむ。

■四五年岩手国体誘致のさい、主競技場となる盛岡市観武ヶ原に建設中の県営運動公園陸上競技場は三万四千平方メートルの敷地に総工費およそ二億一千九〇〇万円で、昨年一二月に工事をすすめ、本年一月に完成しました。

この競技場は一周四〇〇メートルのシンドー舗装トラックをはじめ、投てき、跳躍場などの各競技施設が一種目につき二カ所ずつ設置されている第一種公認の競技場で、東側に聖火台、西側に二万四千人収容のスタンドと芝生があります。

また岩手山を背景にした西側には鉄筋コンクリート造り三階建てのメインスタンドがあり、ロイヤルボックス、放送室、テレビ・ラジオ報道席、選手控室、シャワー室などがあり、観覧席には報道員席と六千人収容の固定席があります。とくに音響装置には、特殊スピーカー・システムが採用されています。

なお競技場外周に造られるサブトラックや附属施設も完成し、テニスコート、ラグビー、サッカー

場も明年六月に完成します。

体育館も三億二千四〇〇万円が建設中で、同じく明年完成することになっており、そのほか県下の体育施設も明後年には全て完成する予定で、国体誘致の万全の体制ができあがってきています。

総仕上げに入った陸上競技場。



5 県民あげて異常気象防災対策に努め、史上最大の米収を確保す。



自衛隊員も援農作戦を展開。

■ことしは年のはじめから異常気象予報が出され、天明年間の冷害にも匹敵する年になるだろうと考えられ、事実、西和賀地方を中心とした豪雪をきっかけに、雪は五月に入っても消えず、さらに加えて異常な低温気象に見舞われ、そ

のうちに集中的な豪雨に襲われて一時は農作物、とくに稲作は絶望視されました。

そのため県では豪雪に対しては豪雪対策本部を設置、また豪雨被害（二八市町村で一〇億四千二百七十五万三千円の被害）や冷害、それに伴うイモチ病の大発生などに對しては県冷害対策協議会を設置するなど、一連の異常気象防災対策を強力に推進しました。

また県の対策に呼応して陸上自衛隊が援農作戦を展開、さらに周辺市町村では委託苗代づくりを行ない、被害をうけた市町村の農家の救援にあたりました。

こうした県民一体の協力と、夏以降の気象条件の好転に伴って遂に悪条件を克服し、史上最高の米収を確保しました。

つまり昭和四〇年水・陸稲作付面積（農林統計一〇月一五日）で見ますと水稲は八万四千三〇〇haの作付けで、予想収穫量は三十五万九千一〇〇トン、陸稲は二十九八〇ha、五千八一〇トン、合わせて三六万四千九〇〇トンでした。

6 岩手県物産観光サービス・ステーション大阪に新設され、東南アジア諸国の現地調査するなど、県産品市場開拓を期す。



小舟で農産物を運ぶ。(パソコクで)

■岩手県物産観光サービス・ステーションは本年九月二日、大阪市南区難波の千日デパート七階に新設されました。

これは、いままです県産品の販売促進、本県観光地の紹介、企業誘致などが、関西方面に進出してい

なかつたため、それを解決し、関西への積極的な働きかけをするために設けられたものです。

このサービス・ステーションの開設に伴って、本県の全てが全国的に紹介されることが期待されるものです。

■また県では、県産品の海外進出を強力にすすめるため、本年一〇月一三日に千田知事を団長とした東南アジア視察団一行六名が空路東南アジア諸国に向い、シンガポールをはじめ、パソコク、ホンコン、沖縄を視察、二二日帰国しました。

これは戦争のために中断されていた県産品の販売ルートを復活させ、こんご積極的な県産品の海外進出をはかろうと、その市場の開拓のため、詳細な市場調査を行なうためのものでした。

この視察の成果は、こんご県産会社をはじめ、その他の県産品販売網を通じて、県産品の輸出につながるものであり、本県の産業経済の振興にも大きな役割を果すことと期待されます。

7 県立精薄施設「松風園」開設され、「緑生園」着工さる。

本県の精神薄弱者対策は近年、とみに強化されており、すでに昨年には精神薄弱児施設「県立みたけ学園」収容定員五〇名が、一五〇名に増床されるなど、施設整備がすすんでいます。

石鳥谷町にある精神薄弱者救護施設「県立好地荘」の隣りに、総工費三千三〇〇万円で開催されました。

この「松風園」は収容定員が七〇名で、精神薄弱者のうちでも社会に復帰できる可能性のある人たちを対象にして、社会性を育て、職業技術を身につけさせたりするもので、いわゆる精神薄弱者を更生させることを目的とした施設となっております。

■精神薄弱者施設「緑生園」は盛岡市中川原に、総工費一千六〇〇万円、本年一〇月に着工され、明年三月一〇日に完成する予定になっております。

この施設は社会福祉法人「岩手更生会」が、県費補助六〇〇万円を得て建設しているもので、収容定員は三〇名です。

こうした民間の精神薄弱者施設は全国的にみても例がないといわれており、それだけに大きな期待が寄せられ、本県の精薄者対策推進の一翼を担うものです。

8 国営須川山麓・駒ヶ岳山麓、県営第二松川開拓パイロット事業およびスパー林道「奥岩泉線」など、大規模農林業基盤事業推進さる。

■須川山麓国営開拓は総事業費二億六千六〇〇万円、千五〇〇haの耕地を造成し、開田、開畑、果樹、養蚕、酪農が予定されているものです。

なお受益地域は一関市（真滝、弥栄）、花泉町（金沢）です。

■駒ヶ岳国営開拓は本年五月二十九日計画承認され、総事業費六億九千五〇〇万円、果樹園五五五ha、牧草畑四五二ha、総延長二万二千六五〇mの道路を設けるもので、初年度四千万円で着工されたものです。また完成は四三年度で、受益地域は水沢市、金ヶ崎町、胆沢村となっております。

■県営第二松川開拓パイロット事業は、岩手郡松尾村松川地内に総事業費二億八千万円（国庫補助率六五%、県一七・五%、残りは地元）で、開田八四・〇五ha、開畑一五八・三八ha、その他、土壤改良、幹・支線用水路、幹・支線道路などをつくるものです。

■スパー林道「奥岩泉線」は林野庁の特定森林地域開発林道計画

の第一年度着工分として、北海道と長野、そして本県に着工されることになったもので、奥岩泉線三キロ、総工費一〇億円、ことしは二億円程度で五カ年で完工する計画です。この路線は将来、大船渡と八戸を結ぶ産業道路の一部となり、畜産振興にも役立ちます。

整備された開拓地。



開設された「松風園」。



9 知事・議長のあっせんにより、教育正常化すすむ。



テストを拒否し、そのため県教委では大量八〇二人の行政処分を行ない、また三七年には七六人を追加処分しました。

ところが八二八人が処分を不服として県人事委員会に不利益処分の審査を請求し、すでに昨年末までに四七回の審理が行なわれ、全国に例のない大量処分のため、一部には「一〇〇年裁判」の観測さえ生まれました。

ところが昨年から県民の間に教育正常化を望む声が高まり、千田知事は昨年一月に小川県教育委員長と懇談し、教育正常化に努力してほしい旨を要請しました。

こうして本年一月四日に千田知事、山崎県議会議長から「教育正常化あっせん案」が出され、これに対して岩教組は九日に臨時中央委員会

県教育委員会と岩教組との対立は昭和三三年の勤務評定実施を契機に表面化しましたが、それを決定的にしたのは三六年の全国中学校一斉学力テスト阻止闘争にからむ処分問題でした。

することに決定し、一日に正式に千田知事に回答し、こうして教育行政と現場との関係は正常化の方向にすすむこととなり、ようやく和解したわけです。これは本県教育の向上に喜ばしいことでした。

10 岩手県庁・岩手県議会議事堂、新築落成す。

■岩手県庁は、南部藩の広小路御殿をはじめりとして、明治一二年にできた洋風二階建ての庁舎、そして明治三六年に完成した総檜造りスレート屋根のゴシック建築の庁舎と移りました。

この明治三六年に完成した県庁がおよそ六〇年間、県政の中心となってきましたが、行政事務の拡大や効率化にせまられ、加えて老朽化もあり、昭和三七年一二月に新庁舎の建設に着手し、本年四月に完成しました。

■岩手県議会議事堂は大正一四年九月一〇日に起工され、昭和二年六月一五日に完成した県公会堂のなかにあつたものですが、これも議会運営の面で支障を来たすようになり、岩手県庁と同時に新しく建築することになったものです。

■この岩手県庁・岩手県議会議事堂の総工費は一九億四千三九九万九千円で、その延面積は知事局棟が三一、〇二七平方メートル、議会議事堂が三、〇二七平方メートル、渡廊下棟が一、三三三平方メートル、あわせて三万七千六三九平方メートル、知事局棟が地下一

階地上一二階塔屋三階、議会議事堂が地上二階一部三階、渡廊下棟が地上三階で、最高の高さが六〇・五メートルという高層建築となっています。こうして、いままですべて各所に分散していた職場が一つにまとまり、行政効率の向上がなされました。

岩手県庁舎の全景。

